

性依存に関する研究動向と課題 —問題あるポルノグラフィ利用の特徴から介入に向けて—

岡部 友峻*・伊藤 大輔**

性的に露骨な表現物であるポルノグラフィは、世界的に流行している。一方で、ポルノグラフィの利用がコントロールできず、行き過ぎる利用によって引き起こされた生活問題を訴える者が報告されている。PPU (Problematic Pornography Use: PPU)とは、ポルノグラフィの依存的利用の総称であり、性依存や強迫的性行動症の一形態と考えられており、生活へ悪影響を与えることを特徴とする。そのため、諸外国では、PPUを改善するための実証的な研究が行われているが、本邦ではPPUの存在自体が十分に認識されておらず、研究も極めて少ないのが現状である。そこで、PPUに関する近年の研究動向を概観した結果、諸外国でのPPUの発生率や関連要因が示唆された。最後に、今後のPPU研究における課題として、PPUの発症・維持に関連する要因の特定や介入法の確立とともに、我が国のPPUの実態解明が挙げられた。

キーワード：ポルノグラフィ，問題あるポルノグラフィ利用，強迫的性行動症，性依存

はじめに

近年、インターネットの普及によって、ポルノグラフィ（以下、ポルノ）へのアクセスは容易になった。実際に、世界で最も人気のあるポルノサイトは、1日あたり平均1億1500万もアクセスされていることが知られており、これはカナダ、オーストラリア、ポーランド、オランダの人口を合わせた数に匹敵する(Pornhub, 2019)。また、COVID-19の流行に際して、ポルノサイトへのアクセス数は、世界的に増加しており(Mestre-Bach, Blycker, & Potenza, 2020)、世界の多くの人々が日常的にポルノサイトを利用しているのが現状である(Price, Patterson, Regnerus, & Walley, 2016)。

そして、現在、ポルノ産業の拡大とともに、ポルノが心身に及ぼす影響に注目した学術研究が海外を中心に増加しており、これまでにポルノ利用の肯定的な側面や否定的な側面に関する議論がなされてきた(e.g., Collins et al., 2017)。例えば、ポルノ利用の肯定的な側面として、デンマークの18歳から30歳までの男女を対象にした調査では、

参加者の大多数が、ポルノを消費することは日常生活の質に良い影響を与えると回答している(Hald & Malamuth, 2008)。また、ポルノを利用することは、性生活の質やパートナーとの親密な関係性の高さなどと関連していることも指摘されている(e.g., Poulsen, Busby, & Galovan, 2013)。このように、娯楽的なポルノ利用は、日常生活に肯定的な影響を与える可能性がある。

一方で、一部のポルノ利用者は、ポルノの利用パターンが依存的になってしまい、失職やパートナーとの親密な関係への支障などの問題を生じていることが報告されている(e.g., Bergner & Bridges, 2002)。以上のような、様々な人生や生活領域において問題を引き起こす依存的なポルノ利用は、Problematic Pornography Use (PPU)と呼ばれており(Kor et al., 2014)、対人関係上の問題や精神的な苦痛、孤独感などと関係していることが明らかにされている(e.g., Yoder, Thomas, & Kiran, 2005)。

このようにPPUは、既存の精神疾患と同様に、日常生活に深刻な悪影響を及ぼすことから、心理社会的支援の必要性が指摘されており、臨床家や研究者の関心は高い(Sniewski, Farvid, & Carter,

* 兵庫教育大学大学院学校教育研究科

** 兵庫教育大学

2018)。実際に、諸外国ではPPUの問題を抱える個人は、医師や心理士に対して支援を求めており、専門的な対応が行われている(e.g., Mitchell & Wells, 2007)。しかし、本邦においては、PPUに対する認識が浸透しておらず、学術研究も極めて少なく、その対策や支援に関する議論は行われていないのが現状である。ポルノの世界的な流行を考慮すると、本邦においてもPPUへの学術研究や心理社会的支援は必要であることが予想される。そこで、本稿では、PPU研究の動向を概観し、PPU対策および支援に向けた今後の研究課題について展望することを目的とする。

ポルノグラフィの定義

まず、ポルノグラフィ（ポルノ）について論じるためには、研究対象であるポルノの定義が必要となる。しかしながら、Short et al. (2012)のレビューでは、インターネットポルノに関する研究の84%が、ポルノを操作的に定義したのか否かが不明であることを報告している。また、Willoughby & Busby (2016)は、どのような性的表現物をポルノと認識するのかについて、個人差が大きいことを明らかにしている。これは、複数人で同一の性的表現物を視聴したとしても、それをポルノと認識する人もいれば、ポルノと認識しない人もいることを示している。つまり、ポルノグラフィは、研究参加者間において、異なる意味として解釈される可能性がある。したがって、再現可能性を重視する実証研究においては、ポルノの操作的な定義を定め、研究参加者に対して呈示することが望まれる(McKee et al., 2020)。

そこで本稿では、ポルノに関する心理学研究において用いられてきた定義を採用する(e.g., Reid et al., 2011)。つまり、ポルノグラフィ（ポルノ）を「①性器を用いた性的な行為（膣性交、肛門性交、口腔性交、自慰など）が露骨に表現されているもの。かつ、②性的な考え、気持ち、行動のいずれかを生じさせるもの。」と定義する。なお、先行研究ではポルノに従事する行動を主に consumption, use, exposureと表現しているが、

本稿はPPUについて論じることから「利用」と表記を統一する。

Problematic Pornography Use

上述したように、一部のポルノ利用者は問題を引き起こすような依存的なポルノ利用(PPU)を報告している。PPUは、Pornography AddictionやCompulsive Pornography Useなどの用語で使用されることもあるが、過度な利用、否定的な感情を紛らわすための利用、ポルノ利用の制御不全、生活支障が生じることによって主に特徴付けられる(Kor et al., 2014)。なお、娯楽的なポルノ利用者と同様に、問題あるポルノ利用者においても、ポルノ利用と自慰行為は同時に行われることが多い(e.g., Bóthe et al., 2018)。

また、PPUを訴える者の報告例として、ポルノ利用を伴う強迫的な自慰行為を10年間毎日行う男性(Kraus et al., 2015a)や、仕事中でも関わらずポルノ利用を止めることができない男性(Twohig & Crosby, 2010)、1日8時間をポルノ利用に費やし疲労困憊するまで自慰行為に取り組む男性(Bostwick & Bucci, 2008)、ポルノについての反すうを止めることのできない男性(Sniewski & Farvid, 2019)などが報告されている。

PPUの診断基準

現状では、PPUそのものに対する正式な診断基準は存在していない(Fernandez & Griffiths, 2019)。一方で、World Health Organization (WHO)による国際疾病分類(International Classification of Diseases)の第11回改訂版(ICD-11)では、衝動制御の障害カテゴリーの中に、新しい疾病として強迫的性行動症(Compulsive Sexual Behavior Disorder)が組み込まれている(Kraus et al., 2018)。強迫的性行動症とは、強烈で反復的な性的衝動の制御の失敗が長期間続き、日常生活に支障が生じることによって特徴付けられる障害である。この点に関して、PPUは、公式の診断基準は存在しないが、強迫的性行動症の一形態と考えられており、強迫的性行動症の診断が

イドラインが適用される可能性がある(Brand, Blycker, & Potenza, 2019)。したがって、今後、ICD-11の本格的な運用を考慮すると、本邦の研究者や臨床家は、PPUに対する効果的な対応方法について検討していくことが望まれるだろう。

PPUの有病率

9,963名の男性と10,131名の女性を対象にしたオーストラリアの大規模調査によると(Rissel et al., 2017), 男性の84%と女性の54%が、これまでにポルノを視聴したことがあると報告している。そして、視聴歴を報告した男性の4%と女性の1%は、自身がポルノに依存していると回答している。また、1,016名の男性と1,059名の女性を対象にしたアメリカの調査によると(Grubbs, Kraus, & Perry, 2019), 過去1年間にポルノを視聴したと報告した成人は、男性の69%と女性の33%であった。また、自身がポルノに依存していることに強く同意する者は、男性の3%と女性の1%であった。

このように、諸外国においては、PPUの一定の発生割合が確認されていることから、我が国においても、PPUによる問題を抱えている者が一定数存在することが予想される。しかし、そのような実態調査は行われていない。また、先行研究において、異なる測定尺度を用いていることや、サンプルに偏りがあることから、PPUの正確な有病率は不明であることも課題とされている(de Alarcón et al., 2019)。

PPUの関連要因

特定の人口統計学的要因や心理学的要因は、PPUと関連することが諸外国のこれまでの研究によって示されている(de Alarcón et al., 2019)。しかし、本邦ではPPUについて概説されている学術的知見が見受けられないため、本稿では、これまでの諸外国の研究によって示されてきた基本的な人口統計学的要因およびポルノ利用特有の関連要因について述べる。

まず、これまで多くの先行研究が、ポルノ利用およびPPUと性別の関連について検証している。

そして、先述した調査においても(Grubbs et al., 2019a; Rissel et al., 2017), 女性よりも男性の方が、ポルノを利用する者の割合は高く、頻繁にポルノを利用しており、ポルノに依存していると感じる者の割合が高いことが示されている。つまり、男性であることは、問題あるポルノ利用者となるリスクが高いといえる(Harper & Hodgins, 2016)。

次に、年齢とPPUとの関連に関して、年齢の低さと、問題的なポルノ利用傾向の高さが関係していることが示されている(e.g., Böthe et al., 2020)。特に、強迫的性行動症と類似概念であるHypersexual Disorderの治療を求めた患者の大半は、制御できない性的空想、衝動、行動を成人前に経験し始めていることが報告されており、青年期に発症しやすい可能性が示唆されている(Reid et al., 2012)。

また、性機能が果たす役割もPPUと関連していることが示唆されている(Wéry & Billieux, 2017)。例えば、異性愛男性を対象にした実験研究では、ポルノ刺激への暴露に対する性的渴望と性的興奮は、オンライン上の性的サイトへの依存度と関連することが示されている(Laier et al., 2013)。その他にも、ポルノ視聴中における主観的な性的興奮は、性的サイトへの依存度と関連していることが明らかにされている(Brand et al., 2011)。つまり、ポルノコンテンツに対して反応する性的興奮や渴望の程度が、PPUと関連すると考えられている(Brand et al., 2019b)。

さらに、PPUは、コミュニティサンプルや治療を求めている者に関わらず、様々な精神疾患を併存することが示されている(e.g., Gola, Lewczuk, & Skorko, 2016)。特に、気分障害や不安障害、物質使用障害、ギャンブル障害(Kraus et al., 2015b), ゲーム障害(Voss et al., 2015), 注意欠如・多動性障害(Niazof, Weizman, & Weinstein, 2019)は、PPUおよび強迫的性行動症と併存する可能性がある。

このように先行研究では、人口統計学的変数や併存疾患とPPUの関連が示されている。一方で、PPUに関連する心理学的要因については一貫した

知見は得られていない(e.g., Bóthe et al., 2020)。そのため、PPUに対する効果的な介入法を確立する上では、PPUのリスクとなる操作可能な変数をさらに検討する必要があるだろう。また、PPUに対する支援では、その他の疾患との鑑別や併存を評価することが必要と考えられる。

PPUの発症・維持メカニズム

神経科学的な観点から、PPUの発症・維持に関するメカニズムは、ギャンブル障害やゲーム障害、買い物依存のような行動アディクションと類似している。例えば、強迫的性行動症およびPPUの発症・維持には、他の行動アディクションと同様に、大脳の腹側線条体や前頭前野、扁桃体の反応性や機能的神経結合が関与していると考えられている(e.g., Stark et al., 2018)。

一方で、PPUに特異的な発症・維持モデルは未だ確立されていない。一般的な行動アディクションの発症・維持プロセスを包括的に捉える理論的フレームワークとして、I-PACE (Interaction of Person-Affect-Cognition-Execution)モデルが提唱されているものの(Brand et al., 2019b)、このモデルではPPU独自の要因は説明されていない。この点に関して、他の行動アディクションと同様に、否定的な気分やストレスを紛らわすようなポルノ利用は、PPUの発症・維持プロセスにおける主要な特徴の一つとされている(Wordecha et al., 2018)。しかし、PPUは自慰行為という他者を介さない身体的な刺激を伴うことや、ポルノ利用行動がそもそも私的な性質を帯びている点などを鑑みると、PPU独自の発症・維持メカニズムを検討する必要性が考えられる。

PPUの治療法

Kraus, Martino, & Potenza (2016)の調査では、ポルノ利用者の約7人に1人が、ポルノ利用に関する治療に関心を示している。つまり、臨床家はPPUを訴える者の治療に向けて準備する必要がある(Sniewski et al., 2018)。しかし、PPUに関する介入研究は、サンプルサイズが小さく、研究法が

一貫しておらず、対照群を設けた研究が不足していることが指摘されている(Sniewski et al., 2018)。例えば、薬物療法に関して、Gola & Potenza (2016)は、PPUの治療を求める異性愛男性3名を対象に、SSRIのパロキセチンと認知行動療法を実施し、不安とポルノ利用の減少を確認している。しかし、治療前には確認されていなかった性的行動(e.g., 浮気や風俗利用)が、参加者間で新しく出現したことを報告している。また、Kraus et al. (2015a)は、強迫的なポルノ利用の治療を求める男性に対して、認知行動療法とオピオイド拮抗薬であるナルトレキソンを用いて、衝動的な自慰行為やポルノ利用の減少を報告している。このように、薬物療法による介入は、一定の効果が想定されるが、統制条件を設けたさらなる研究が必要である。

一方、心理療法に関しては、認知行動療法やアクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT)、カップルセラピーが有効である可能性が示唆されている(Sniewski et al., 2018)。特に、心理的柔軟性の向上を目的とするACTによるPPUへの臨床研究は、実験的な介入研究を経て(Twohig & Crosby, 2010)、無作為化比較試験が実施され(Crosby & Twohig, 2016)、ポルノ利用時間の減少と生活の質の改善が示されている。ACTでは、PPUの発症・維持プロセスの特徴である否定的な感情や衝動を回避するためのポルノ利用を介入ターゲットとしていることから、PPU治療に対する有効性が期待されている(Levin, Lee, & Twohig, 2019)。

まとめと今後の課題と展望

本稿では、基礎的な観点からPPUに関する研究動向を概観した。その知見に基づいて、今後のPPU研究における課題と展望を示す。

第一に、PPUの病態像を正確に理解し、ポルノ利用のパターンをより詳細に検討することである。Bóthe et al. (2020)は、高頻度のポルノ利用であるにも関わらず、PPU傾向が低いグループの存在を示している。すなわち、高頻度・長時間のポル

ノ利用であるにも関わらず、本人や周囲に問題を引き起こすことなく、娯乐的にポルノを利用する者が存在する。したがって、過剰なポルノ利用はPPUの特徴の一つではあるものの、行動頻度や時間などの行動形態のみでPPUを評価すべきではないと言える。一方で、低頻度のポルノ利用者であっても、自身の宗教観といった道徳観：「ポルノを利用することはいけないこと」と行動：「ポルノ利用」の不一致に伴う葛藤によって、精神的苦痛を訴える者が存在する(Grubbs et al., 2019b)。ただし、宗教観に由来する道徳的不一致に関する心理的苦痛は、ICD-11の強迫的性行動症の診断基準には含まれていない(Kraus et al., 2018; WHO, 2018)。つまり、依存的なポルノ利用の問題と、道徳的な不一致によるポルノ利用の問題は、互いに排他的ではないものの、医学的診断においては慎重に生活支障の所在を評価することが重要である。これらの知見を踏まえると、PPUの研究や治療の際には、ポルノの利用パターンや利用の制御低下、関連する苦痛や生活支障におけるポルノ利用の状況や機能を考慮することが重要である(Brand et al., 2019a; Wordecha et al., 2018)。この点に関して、PPUを評価する上で重要になるのが、測定法である。現在、PPUを測定する心理尺度は複数開発されており、Problematic Pornography Use Scale (Kor et al., 2014)やProblematic Pornography Consumption Scale (Böthe et al., 2018の使用)が推奨されている(Fernandez & Griffiths, 2019)。したがって、PPUを評価する際には、これらの測定器具を用いることが重要である。

第二に、介入研究の課題がある。現在のところ、無作為化比較試験を用いたPPU研究は、Crosby & Twohig (2016)によるアクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT)の効果研究しか存在しない。しかし、Crosby & Twohig (2016)では、参加者のほとんどは、宗教信仰に所属している白人男性であったことから、宗教信仰が低い個人や女性、LGBTQ、併存疾患を抱えている者に対する結果の一般化には大きな課題が残ると言わざるを

得ない(Sniewski et al., 2018)。したがって、PPUに焦点を当てた治療法の確立に向けて、参加者の特徴や介入方法の違いに着目した介入研究が求められる。また、統制条件と比較した際の薬物療法の効果や、薬物療法と各心理療法の組み合わせの効果についても検討の余地があると言える。

第三に、本稿で取り上げたPPUに関するこれまでの実証研究は全て海外で行われたものであり、本邦ではPPUに焦点を当てた実証研究は見受けられないため、本邦の実態を明らかにする必要がある。本邦では、性的問題行動に関する社会的理解や支援体制が不十分であり(榎本, 2014)、援助要請行動が生じにくいいため、問題あるポルノ利用者が潜在化していると考えられる。そのため、これまでの諸外国の研究によって報告されている問題あるポルノ利用者が、本邦において存在するのかは不明である。しかしながら、本邦においても、強迫的性行動症傾向のある者の存在や(岡部他, 2020)、成人向け動画が多くの人によって利用されている現状を踏まえると(一般社団法人日本家族計画協会, 2020)、問題あるポルノ利用者が一定数存在すると想定される。また、日本は西欧諸国と比較して、性的行動をタブー視しやすく、宗教的背景が異なることを考慮すると、国際比較の観点からも様々な文化圏におけるPPUの研究知見が求められる(e.g., Kraus et al., 2018)。つまり、本邦のPPUによる問題を抱える者の実態を明らかにし、実証的知見に基づく社会的理解の促進や支援体制の構築が望まれる。その際に、国際比較の観点からも、先述した心理尺度(Böthe et al., 2018; Kor et al., 2014)を本邦で使用できるように整備する必要がある。

以上のような課題を解決することによって、PPUによる生活支障を抱える者への正確な理解につながり、実証的知見に基づいた効果的な支援が提供されることが期待される。

引用文献

Bergner, R. M., & Bridges, A. J. (2002). The significance of heavy pornography involvement

- for romantic partners: Research and clinical implications. *Journal of Sex and Marital Therapy*, 28(3), 193-206.
- Bostwick, J. M., & Bucci, J. A. (2008). Internet sex addiction treated with naltrexone. *Mayo Clinic Proceedings*, 83(2), 226-230.
- Brand, M., Blycker, G. R., & Potenza, M. (2019a). When pornography becomes a problem: Clinical insights. *Psychiatric Times*, 36, Issue 12.
- Brand, M., Laier, C., Pawlikowski, M., Schächtle, U., Schöler, T., & Altstötter-Gleich, C. (2011). Watching pornographic pictures on the internet: Role of sexual arousal ratings and psychological-psychiatric symptoms for using internet sex sites excessively. *Cyberpsychology, Behavior, and Social Networking*, 14(6), 371-377.
- Brand, M., Wegmann, E., Stark, R., Müller, A., Wölfling, K., Robbins, T. W., & Potenza, M. N. (2019b). The interaction of person-affect-cognition-execution (I-PACE) model for addictive behaviors: Update, generalization to addictive behaviors beyond internet-use disorders, and specification of the process character of addictive behaviors. *Neuroscience and Biobehavioral Reviews*, 104, 1-10.
- Bóthe, B., Tóth-Király, I., Potenza, M. N., Orosz, G., & Demetrovics, Z. (2020). High-frequency pornography use may not always be problematic. *Journal of Sexual Medicine*, 17(4), 793-811.
- Bóthe, B., Tóth-Király, I., Zsila, Á., Griffiths, M. D., Demetrovics, Z., & Orosz, G. (2018). The development of the problematic pornography consumption scale (PPCS). *Journal of Sex Research*, 55(3), 395-406.
- Collins, R. L., Strasburger, V. C., Brown, J. D., Donnerstein, E., Lenhart, A., & Ward, L. M. (2017). Sexual media and childhood well-being and health. *Pediatrics*, 140, S162-S166.
- Crosby, J. M., & Twhig, M. P. (2016). Acceptance and commitment therapy for problematic internet pornography use: A randomized trial. *Behavior Therapy*, 47(3), 355-366.
- de Alarcón, R., de la Iglesia, J. I., Casado, N. M., & Montejo, A. L. (2019). Online Porn Addiction: What We Know and What We Don't-A Systematic Review. *Journal of clinical medicine*, 8(1), 91.
- 榎本稔 (2014).性依存症の治療—暴走する性・彷徨う愛—金剛出版
- Fernandez, D. P., & Griffiths, M. D. (2019). Psychometric Instruments for Problematic Pornography Use: A Systematic Review. *Evaluation & the health professions*, 163278719861688. Advance online publication.
- Gola, M., & Potenza, M. N. (2016). Paroxetine treatment of problematic pornography use: A case series. *Journal of Behavioral Addictions*, 5(3), 529-532.
- Gola, M., Lewczuk, K., & Skorko, M. (2016). What matters: Quantity or quality of pornography use? psychological and behavioral factors of seeking treatment for problematic pornography use. *Journal of Sexual Medicine*, 13(5), 815-824.
- Grubbs, J. B., Kraus, S. W., & Perry, S. L. (2019a). Self-reported addiction to pornography in a nationally representative sample: The roles of use habits, religiousness, and moral incongruence. *Journal of Behavioral Addictions*, 8(1), 88-93.
- Grubbs, J. B., Perry, S. L., Wilt, J. A., & Reid, R. C. (2019b). Pornography problems due to moral incongruence: An integrative model with a systematic review and meta-analysis. *Archives of Sexual Behavior*, 48(2), 397-415.
- Hald, G. M., & Malamuth, N. M. (2008). Self-perceived effects of pornography consumption. *Archives of Sexual Behavior*, 37(4), 614-625.
- Harper, C., & Hodgins, D. C. (2016). Examining correlates of problematic Internet pornography use among university students. *Journal Of Behavioral Addictions*, 5(2), 179-191.
- 一般社団法人日本家族計画協会(2020).【ジエク

- ス】 ジャパン・セックスサーベイ2020. <https://www.jfpa.or.jp/pdf/sexsurvey2020/report.pdf>
- Kor, A., Zilcha-Mano, S., Fogel, Y. A., Mikulincer, M., Reid, R. C., & Potenza, M. N. (2014). Psychometric development of the problematic pornography use scale. *Addictive Behaviors, 39*(5), 861-868.
- Kraus, S. W., Krueger, R. B., Briken, P., First, M. B., Stein, D. J., Kaplan, M. S., . . . Reed, G. M. (2018). Compulsive sexual behaviour disorder in the ICD-11. *World Psychiatry, 17*(1), 109-110.
- Kraus, S. W., Meshberg-Cohen, S., Martino, S., Quinones, L. J., & Potenza, M. N. (2015a). Treatment of compulsive pornography use with naltrexone: A case report. *American Journal of Psychiatry, 172*, 1260-1261.
- Kraus, S. W., Potenza, M. N., Martino, S., & Grant, J. E. (2015b). Examining the psychometric properties of the yale-brown obsessive-compulsive scale in a sample of compulsive pornography users. *Comprehensive Psychiatry, 59*, 117-122.
- Kraus, S. W., Voon, V., & Potenza, M. N. (2016). Should compulsive sexual behavior be considered an addiction? *Addiction, 111*(12), 2097-2106.
- Laier, C., Pawlikowski, M., Pekal, J., Schulte, F. P., & Brand, M. (2013). Cybersex addiction: Experienced sexual arousal when watching pornography and not real-life sexual contacts makes the difference. *Journal of Behavioral Addictions, 2*(2), 100-107.
- Levin, M. E., Lee, E. B., & Twohig, M. P. (2019). The role of experiential avoidance in problematic pornography viewing. *Psychological Record, 69*(1).
- McKee, A., Byron, P., Litsou, K., & Ingham, R. (2020). An interdisciplinary definition of pornography: Results from a global delphi panel. *Archives of Sexual Behavior, 49*(3), 1085-1091.
- Mestre-Bach, G., Blycker, G. R., & Potenza, M. N. (2020). Pornography use in the setting of the COVID-19 pandemic. *Journal of Behavioral Addictions, 9*(2), 181-183.
- Mitchell, K. J., & Wells, M. (2007). Problematic internet experiences: Primary or secondary presenting problems in persons seeking mental health care? *Social Science and Medicine, 65*(6), 1136-1141.
- Niazof, D., Weizman, A., & Weinstein, A. (2019). The contribution of ADHD and attachment difficulties to online pornography use among students. *Comprehensive Psychiatry, 93*, 56-60.
- 岡部友峻・高橋史・伊藤大輔 (2020). 大学生における強迫的性行動症とエフォートフル・コントロールとの関係 発達心理臨床研究, 26, 47-55.
- Pornhub. (2019). The 2019 Year in review. <https://www.pornhub.com/insights/2019-year-in-review>.
- Poulsen, F. O., Busby, D. M., & Galovan, A. M. (2013). Pornography use: Who uses it and how it is associated with couple outcomes. *Journal of Sex Research, 50*(1), 72-83.
- Price, J., Patterson, R., Regnerus, M., & Walley, J. (2016). How much more XXX is generation X consuming? evidence of changing attitudes and behaviors related to pornography since 1973. *Journal of Sex Research, 53*(1), 12-20.
- Reid, R. C., Carpenter, B. N., Hook, J. N., Garos, S., Manning, J. C., Gilliland, R., . . . Fong, T. (2012). Report of findings in a DSM-5 Field Trial for Hypersexual Disorder. *Journal of Sexual Medicine, 9*(11), 2868-2877.
- Reid, R. C., Li, D. S., Gilliland, R., Stein, J. A., & Fong, T. (2011). Reliability, validity, and psychometric development of the pornography consumption inventory in a sample of hypersexual men. *Journal of Sex and Marital Therapy, 37*(5), 359-385.
- Rissel, C., Richters, J., de Visser, R. O., McKee, A.,

- Yeung, A., & Caruana, T. (2017). A profile of pornography users in Australia: Findings from the second Australian study of health and relationships. *Journal of Sex Research, 54*(2), 227-240.
- Short, M. B., Black, L., Smith, A. H., Wetterneck, C. T., & Wells, D. E. (2012). A review of internet pornography use research: Methodology and content from the past 10 years. *Cyberpsychology, Behavior, and Social Networking, 15*(1), 13-23.
- Sniewski, L., & Farvid, P. (2019). Abstinence or acceptance? A case series of Men's experiences with an intervention addressing self-perceived problematic pornography use. *Sexual Addiction and Compulsivity, 26*(3-4), 191-210.
- Sniewski, L., Farvid, P., & Carter, P. (2018). The assessment and treatment of adult heterosexual men with self-perceived problematic pornography use: A review. *Addictive Behaviors, 77*, 217-224.
- Stark, R., Klucken, T., Potenza, M., Brand, M., & Strahler, J. (2018). A Current Understanding of the Behavioral Neuroscience of Compulsive Sexual Behavior Disorder and Problematic Pornography Use. *Current Behavioral Neuroscience Reports, 5*, 218-231.
- Twohig, M. P., & Crosby, J. M. (2010). Acceptance and commitment therapy as a treatment for problematic internet pornography viewing. *Behavior Therapy, 41*(3), 285-295.
- Voss, A., Cash, H., Hurdiss, S., Bishop, F., Klam, W. P., & Doan, A. P. (2015). Case Report: Internet Gaming Disorder Associated With Pornography Use. *The Yale journal of biology and medicine, 88*(3), 319-324.
- Willoughby, B. J., & Busby, D. M. (2016). In the eye of the beholder: Exploring variations in the perceptions of pornography. *Journal of Sex Research, 53*(6), 678-688.
- Wordecha, M., Wilk, M., Kowalewska, E., Skorko, M., Łapiński, A., & Gola, M. (2018). "Pornographic binges" as a key characteristic of males seeking treatment for compulsive sexual behaviors: Qualitative and quantitative 10-week-long diary assessment. *Journal of Behavioral Addictions, 7*(2), 433-444.
- World Health Organization: ICD-11. International Classification of Diseases, 11th version. The Global Standard for Diagnostic Health Information. (<https://icd.who.int/>)
- Wéry, A., & Billieux, J. (2017). Problematic cybersex: Conceptualization, assessment, and treatment. *Addictive Behaviors, 64*, 238-246.
- Yoder, V. C., Virden III, T. B., & Amin, K. (2005). Internet pornography and loneliness: An association? *Sexual Addiction and Compulsivity, 12*(1), 19-44.

Research Trends and Issues Related to Sexual Addiction -From the Characteristics of Problematic Pornography Use to Intervention-

Yushun Okabe*, Daisuke Ito**

*Graduate School of Education, Hyogo University of Teacher Education

**Hyogo University of Teacher Education

While pornography as a sexually explicit medium has become a worldwide prevalence, some people have reported problems in their lives caused by the uncontrolled excesses of pornography use. Problematic Pornography Use (PPU) is a generic term for addictive use of pornography, which is considered a form of sexual addiction and compulsive sexual behavior disorder and is characterized by its negative impact on one's life. However, in Japan, the existence of PPU is not well recognized and there are very few studies on PPU. In this paper, we reviewed the recent research trend on PPU and overviewed the incidence of PPU in other countries and related factors. Lastly, it was suggested that future research on PPU should focus on the identification of development and maintenance factors, the establishment of intervention methods, and revealing the reality of PPU in Japan.

Key words: Pornography, Problematic Pornography Use, Compulsive Sexual Behavior, Sexual Addiction